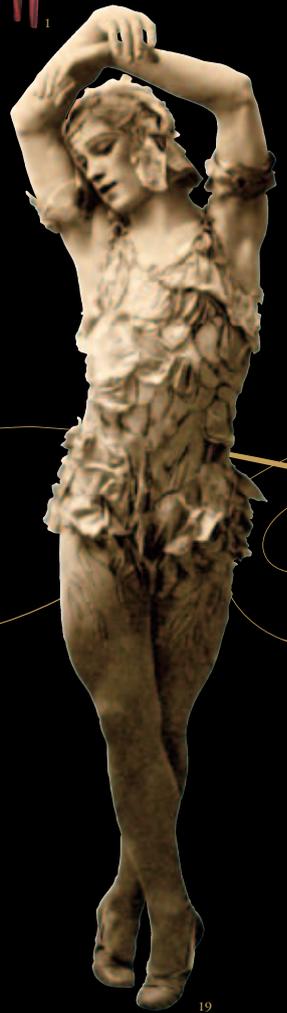


BALLETS RUSSES

THE ART OF COSTUME



現代の芸術・ファッションの源泉
ピカソ、マティスを魅了した伝説のロシア・バレエ

魅惑のコスチューム： バレエ・リュス展

企画概要

1909年にパリで鮮烈なデビューを果たしたバレエ・リュス(ロシア・バレエ)は、革新的なステージにより一世を風靡した伝説のバレエ団です。主宰者セルゲイ・ディアギレフ(1872-1929)の慧眼により、同バレエ団はワツラフ・ニジンスキー(1889-1950)をはじめとするバレエ・ダンサーや振付家に加え、20世紀を代表する作曲家イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882-1971)ら、数々の新しい才能を輩出しました。ロシアのエキズティシズムとして人気を集めたバレエ・リュスは、やがてピカソやマ蒂斯、コクトー、ブラック、ローランサン、シャネルら、当時パリで活躍していた前衛の若手アーティストを取り込み、新しいスタイルの「総合芸術」として、バレエだけでなく美術やファッション、音楽の世界にも革新と興奮をもたらし、大きな影響を与えました。

本展では、オーストラリア国立美術館が有する世界屈指のバレエ・リュスのコスチューム・コレクション32演目、約140点の作品を中心に、デザイン画や資料などと併せて、これまでにない規模でその魅力の全貌を紹介します。



12
レオン・バクスト、アレクサンドル・ゴロヴィン
「不死身のカステイ王の従者」の衣装(火の鳥)より
1910年
オーストラリア国立美術館

バレエ・リュスとは

1909-29年にディアギレフによって主宰され、20世紀初頭の動乱の時代に、舞踊や舞台デザインの世界に革命をもたらしたバレエ団です。ロシア帝室バレエ団出身のメンバーが中心となり、パリを中心にヨーロッパ各地やアメリカ、オーストラリアなどで公演しました。「バレエ・リュス」とは、フランス語で「ロシア・バレエ団」を意味しますが、ロシアで公演したことは一度もありませんでした。伝説のダンサー兼振付家ニジンスキーをはじめ、レオニード・マシーン(1895-1979)やプロニスラワ・ニジンスカ(1891-1972)、セルジュ・リファール(1905-1986)、ジョージ・バランシン(1904-1983)ら、20世紀におけるバレエの革新に大きく貢献した振付家を輩出しました。ストラヴィンスキーが広く世に知られる契機となったのも、ディアギレフに依頼されバレエ・リュスのために作曲した《火の鳥》(1910年)や《春の祭典》(1913年)です。ディアギレフ没後、リファールはパリ・オペラ座の芸術監督を務め、バランシンはニューヨーク・シティ・バレエ団の母体をつくるなど、世界各地のバレエ団の礎はバレエ・リュス出身のダンサーたちによって築かれました。



現代の芸術、ファッションの源泉— 豪華な顔ぶれのアーティストたちが関わった伝説のバレエ団

20世紀を代表する画家パブロ・ピカソ(1881-1973)やアンリ・マティス(1869-1954)、ジョルジョ・デ・キリコ(1888-1978)、ロシア出身の画家レオン・バクスト(1866-1924)やナタリヤ・ゴンチャロワ(1881-1962)、ミハイル・ラリオフ(1881-1964)、20世紀を代表する作曲家イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882-1971)、ファッション界の革命児ココ・シャネル(1883-1971)……。多くの前衛アーティストたちがバレエ・リュスに参画し、音楽や舞台装置、衣装デザインを手がけました。



18
レオン・バクスト
三人の「海賊」の衣装(ダフニスとクロエ)より
1912年頃
オーストラリア国立美術館

展覧会の見どころ



空前絶後! バレエ・リュスのコスチュームを大規模に紹介する 日本で初めての展覧会

バレエ・リュスは、その革新性からいまだに大きな影響力を持つ伝説的存在ですが、今日の私たちは、その偉業をわずかに残された手がかりを元に想像するしかありません。そうした中、コスチュームは、ダンサーの身体を想起させ、当時の様子を最もリアルに伝える格好の遺産であるといえます。考え抜かれたデザインやカット、構造、鮮やかな色彩、装飾…バレエ・リュスの衣装は、それを身に着けたダンサーの動きに、さらなる視覚的なインパクトを付与するものでした。バクストをはじめアレクサンドル・ブノワ(1870-1960)やマティス、ジョルジュ・ブラック(1882-1963)、ゴンチャロワ、ラリオフ、アンドレ・ドラン(1880-1954)、デ・キリコら、錚々たる顔ぶれのアーティストたちによってデザインされた斬新で煌びやかなバレエ衣装を展示します。



オーストラリア国立美術館が有する 世界屈指のバレエ・リュス衣装コレクション

オーストラリア国立美術館は、1973年にロンドンのサザビーズで約400点ものバレエ・リュス関連の作品や資料を購入して以来、バレエ・リュスの衣装を館の重要なコレクションとして積極的に蒐集してきました。本展覧会では、約40年かけて丁寧に修復されたコスチュームが、オーストラリア国外で初めてまとまった形で展示されます。世界屈指のバレエ・リュス衣装コレクションが一堂に会する、貴重な機会となります。



多彩な関連イベント

展覧会を多角的な視点でとらえる機会として、様々な分野から専門家をお招きした講演会やワークショップなど各種イベントの開催を予定しています。イベントの詳細については、展覧会ホームページでご案内いたします。



充実した展覧会カタログ

オーストラリア国立美術館で開催された本展覧会(2010-2011年)の英語版カタログを、日本語に翻訳して出版します。図版を多く掲載した本カタログは、バレエ・リュスのコスチュームを知る入門書として、格好の1冊となることでしょう。



鑑賞ガイド

子どもから大人まで、来場された方々が年齢に関係なく展覧会を楽しめるようなガイドブックを会場で無料配布する予定です。



音声ガイド

音声ガイドではK-BALLET COMPANY(Kバレエカンパニー)芸術監督・熊川哲也氏も出演いたします。展覧会会場限定のオリジナルコンテンツを是非会場でご堪能ください。



14
レオン・バクスト
「青神」の衣装(《青神》より)
1912年頃
オーストラリア国立美術館

展覧会の構成

I. 初期 1909-1913年 (ロシア・シーズン)

1909年5月にパリのシャトレ座で《アルミードの館》(美術・衣装デザイン:ブワ)、《ポロヴェツ人の踊り》(美術・衣装デザイン:レーリ)、《饗宴》(美術・衣装デザイン:ゴロヴィン、本展不出品)で鮮烈なデビューを果たしたバレエ・リュスは、その後わずか短期間のうちに《クレオパトラ》(1909年、美術・衣装デザイン:バクスト)や《シェエラザード》(1910年、音楽:リムスキー=コルサコフ、美術・衣装デザイン:バクスト)、《火の鳥》(1910年、美術:ゴロヴィン、衣装デザイン:ゴロヴィン、バクスト)、《ペトルーシュカ》(1911年、美術・衣装デザイン:ブワ)、《青神》(1912年、美術・衣装デザイン:バクスト)などの傑作を次々と発表し、一世を風靡しました。

その後1911年頃には、それまで振付を担当したミハイル・フォーキンに代わり伝説のスターダンサー、ニジンスキーが振付を手掛けるようになります。中でも、《牧神の午後》(1912年、音楽:ドビュシー、美術・衣装デザイン:バクスト)や《春の祭典》(1913年、音楽:ストラヴィンスキー、本展不出品)はよく知られています。この時期、鮮やかな色彩で東洋のエキゾティシズムやロシア的な原始性を最高度のテクニックで表現したバレエ・リュスは、異国情緒溢れる甘美な作品を多く生み出しました。



8
レオン・バクスト「シャー・ゼーマン」の衣装(部分)
(《シェエラザード》より)1910-30年代 オーストラリア国立美術館



20
レオン・バクスト「貴婦人」の衣装(蝶々)より
1914年頃 オーストラリア国立美術館

II. 中期 1914-1921年 (モダニズムの受容)

1914年に第一次世界大戦が勃発し、世紀末から続いたベル・エポックが終焉を迎えた頃、ディアギレフはそれまでの東洋趣味から離れ、パリで活躍していたピカソやジャン・コクトー(1889-1963)ら若手の前衛アーティストを、バレエ・リュスの活動へ積極的に取り込みます。振付においても、フォーキンやニジンスキーに代わる振付家としてマシーンが活躍し、新たにコミカルさという要素も加わりました。

本展では、ゴンチャロフが美術および衣装デザインを担当した《金鶏》(1914年、音楽:リムスキー=コルサコフ)の衣装やマティスがデザインした《ナイチンゲールの歌》(1920年、音楽:ストラヴィンスキー)など、バレエ・リュスがモダニズムと関わり始めた時代のコスチュームを展示します。

III. 後期 1921-1929年 (モンテカルロ)

マシーンがバレエ・リュスを去った後、ニジンスキーの妹ニジンスカが振付を担当し、《結婚》(1923年、本展不出品)や《牝鹿》(1924年、美術・衣装デザイン:ローランサン)、《青列車》(1924年、台本:コクトー、衣装デザイン:ジャンネル、本展不出品)など、モダンで洗練された作品が数多く生み出されました。一方、この時期、ディアギレフはチャイコフスキーやプティパによる伝統的なクラシック・バレエの最高傑作を西欧に紹介したいと考え、《眠り姫》(1921年、美術・衣装デザイン:バクスト)や《オーロラの結婚》(1922年、美術・衣装デザイン:バクスト)なども上演しています。また、ディアギレフは音楽家プロコフィエフの若き才能を見抜き、《道化師》(1921年、美術・衣装デザイン:ラリオンフ)やソヴィエト社会をロシア構成主義的な作風で表現した《鋼鉄の踊り》(1927年、美術・衣装デザイン:ヤクーロフ)のための作曲を依頼しました。その他、全身レオタードに蛍光塗料が塗られた実験的な衣装を採用した《頌歌》(1928年、美術・衣装デザイン:チェリチュフ)が上演されたのも、この時代です。



22
レオン・バクスト
「侍女」の衣装(《眠り姫》より)
1921年頃
オーストラリア国立美術館



24
ゲオルギー・ヤクーロフ「女性労働者」の衣装(《鋼鉄の踊り》より)
1927年頃 オーストラリア国立美術館

IV. バレエ・リュス解散後 (バレエ・リュス・ド・モンテカルロを中心に)

ディアギレフの没後、バレエ・リュスは解散し、バレエ・リュスに触発されたバレエ団が数多く誕生しました。中でも最も重要なのが、1932年にバジル大佐とルネ・ブリュムによって結成された「バレエ・リュス・ド・モンテカルロ」です(36年に二人は訣別し、ブリュムは新たに「モンテカルロ・バレエ」を結成、後に残されたバジル大佐は一座を「バジル大佐のバレエ・リュス」と改名しました)。彼らは「バレエ・リュス・ド・モンテカルロ」にディアギレフの腹心であったセルジュ・グリゴリエフ(1883-1968)やホルス・コフノ(1904-1990)を呼び寄せ、また、バレエ・マスターとしてジョージ・バランシンを起用しました。こうして、同バレエ団はディアギレフのバレエ・リュス時代の主要メンバーが参加し、活動を展開しました。このほか、パロノワ、リャブチンスカ、トゥマノワという3人の有名な「ベイビー・バレリーナ」が活躍したのもこのバレエ団です。

モナコを拠点としたこのバレエ団は、世界中を広く巡業し、オーストラリアでもツアー公演を行っています。同バレエ団で活躍したダンサーたちが、後にオーストラリア・バレエの礎を築きました。本展では、《予兆》(1933年、衣装デザイン:アンドレ・マッソン)や《公園》(1935年、衣装デザイン:ジャン・リュルサ)などを展示します。

展覧会名：魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展

会 期：2014年6月18日(水)～9月1日(月)

休 館 日：毎週火曜日 ただし8月12日(火)は開館

開館時間：10:00-18:00 金曜日、8月16日(土)、23日(土)、30日(土)は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

会 場：国立新美術館 企画展示室1E(東京・六本木)

主 催：国立新美術館、TBS、オーストラリア国立美術館、読売新聞社

後 援：オーストラリア大使館、公益社団法人日本バレエ協会

協 賛：大日本印刷、チャコット

協 力：K-BALLET、日本航空、ヤマトロジスティクス

観 覧 料 (税込)

	一般	大学生	高校生
当日	¥1,500	¥1,200	¥600
前売/団体	¥1,300	¥1,000	¥400

*中学生以下の方および障害者手帳をご持参の方(付き添いの方1名を含む)は入場無料

*7月25日(金)、26日(土)、27日(日)は高校生無料観覧日(学生証の提示が必要)

*前売券および当日券は、チケットぴあ(Pコード: 766-033)、ローソンチケット(Lコード: 31307)、イープラスでも取扱っています(手数料がかかる場合があります)

*前売券は2014年2月26日(水)から6月17日(火)まで販売(国立新美術館での販売は6月16日(月)まで)

*団体券は国立新美術館でのみ販売(20名以上に適用)

関連イベント

講演会 「Ballets Russes: The Art of Costume」6月18日(水)14:00-15:30 講師: ロバート・ベル氏
(本展企画者、オーストラリア国立美術館装飾芸術・デザイン部門シニア・キュレーター) (逐次通訳付)

講演会 「バレエ・リュスの功績」7月13日(日)14:00-15:30 講師: 薄井憲二氏(公益社団法人日本バレエ協会会長)

上映会 「バレエ・リュス 踊る喜び、生きる喜び」(監督: ダン・ゲラー、ディナ・ゴールドファイン 2005年、118分)

6月21日(土)および8月16日(土)10:30、13:00、15:30

解説会 7月11日(金)、8月15日(金)両日とも18:30-19:00 講師: 本展担当研究員

*いずれも会場は当館3階講堂 定員: 250名(先着順)

*参加は無料ですが、本展の観覧券(半券可)の提示が必要です

*その他、関連イベントが決まり次第ご案内いたします。最新情報については、展覧会ホームページをご覧ください

報道関係のお問い合わせ 国立新美術館 広報担当: 桐生、菊池

Tel.03-6812-9925 Fax.03-3405-2531 E-mail: pr@nact.jp

展覧会ホームページ <http://www.tbs.co.jp//balletsrusses2014>



新 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

Tel. 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

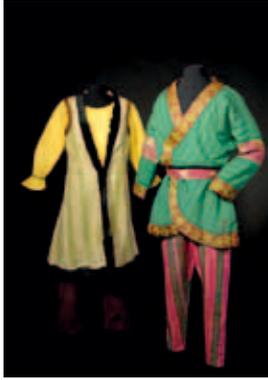
<http://www.nact.jp/>

アクセス

- 東京メトロ千代田線 乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
- 東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口 徒歩約5分
- 都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口 徒歩約4分



19
オーギュスト・ペール
(薔薇の精) - ニジンスキー
1913年
オーストラリア国立美術館



ニコライ・レーリヒ
 「ポロヴェツ人の少女」、「ポロヴェツ人の戦士」の衣装
 ((イーゴリ公)の(ポロヴェツ人の踊り)より)
 1909-37年頃
 オーストラリア国立美術館
 Nicholas ROERICH
 Costumes for a Polovtsian girl
 and a Polovtsian warrior
 from the Ballets Russes' production
 of *Dances polovtsiennes du Prince Igor*
 (The Polovtsian Dances from Prince Igor), c.1909-37
 National Gallery of Australia, Canberra

1



レオン・バクスト
 「シリア人女性」の衣装((クレオパトラ)より)
 1909-1930年代
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for a Syrian Woman
 from the Ballets Russes' production of
Cléopâtre (Cleopatra), 1909-1930s
 National Gallery of Australia, Canberra

2



レオン・バクスト
 「奴隷」あるいは「踊り子」の衣装((クレオパトラ)より)
 1918-1936年頃
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for a slave or dancing girl
 from the Ballets Russes' production of
Cléopâtre (Cleopatra), 1918-c.1936
 National Gallery of Australia, Canberra

3



レオン・バクスト
 「キアリーナ」の衣装((カルナヴァル)より)
 1910年頃
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for Chiarina
 from the Ballets Russes' production of
Carnaval (Carnival), c.1910
 National Gallery of Australia, Canberra

4



レオン・バクスト
 「ピエロ」の衣装((カルナヴァル)より)
 1910年頃
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for Pierrot
 from the Ballets Russes' production of
Carnaval (Carnival), c.1910
 National Gallery of Australia, Canberra

5



レオン・バクスト
 「宦官長」の衣装((シェエラザード)より)
 1910年頃
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for the Chief Eunuch
 from the Ballets Russes' production of
Schéhérazaade, c.1910
 National Gallery of Australia, Canberra

6



レオン・バクスト
 「シャー・ゼーマン」の衣装((シェエラザード)より)
 1910-30年代
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for Shah Zeman
 from the Ballets Russes' production of
Schéhérazaade, 1910-1930s
 National Gallery of Australia, Canberra

7



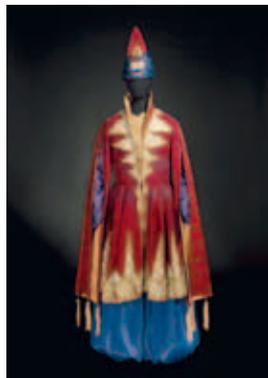
レオン・バクスト
 「シャー・ゼーマン」の衣装(部分)
 ((シェエラザード)より) 1910-30年代
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for Shah Zeman (detail)
 from the Ballets Russes' production of
Schéhérazaade, 1910-1930s
 National Gallery of Australia, Canberra

8



レオン・バクスト
 「踊り子」あるいは「オダリスク」の衣装
 ((シェエラザード)より) 1915-30年代頃
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for a dancing girl (almée) or odalisque
 from the Ballets Russes' production of
Schéhérazaade, c.1915-30s
 National Gallery of Australia, Canberra

9



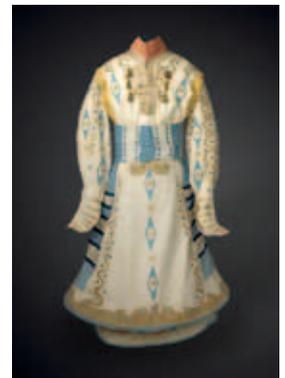
レオン・バクスト
 「シャリアル王」の衣装((シェエラザード)より)
 1910-30年代
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST
 Costume for Shar Shahriar
 from the Ballets Russes' production of
Schéhérazaade, 1910-30s
 National Gallery of Australia, Canberra

10



オーギュスト・ベール
 《シェエラザード》— ニジンスキー
 1910年
 オーストラリア国立美術館
 Auguste BERT
Schéhérazaade — M. Nijinsky,
 plate 15 from
Studies from the Russian Ballet, 1910
 National Gallery of Australia, Canberra

11



レオン・バクスト、アレクサンドル・ゴロヴィン
 「不死身のカステイ王の従者」の衣装((火の鳥)より)
 1910年
 オーストラリア国立美術館
 Léon BAKST and Aleksandr GOLOVIN
 Costume for an attendant of the Immortal Kóstchei
 from the Ballets Russes' production of
L'Oiseau de feu (The Firebird), 1910
 National Gallery of Australia, Canberra

12

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。

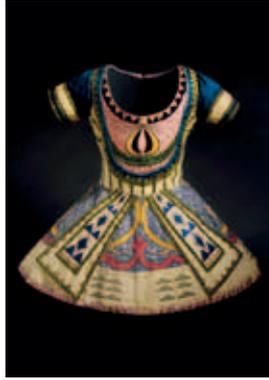
ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申し込みください(メールで直接お申し込みいただくことも可能です)。



E. O. ホッペ
《火の鳥》— タマル・カルサヴィナとアドルフ・ホルム
オーストラリア国立美術館

E. O. HOPPÉ
*L'Oiseau de feu — Madame Thamar Karsavina
and M Adolph Bolm, plate 3
from Studies from the Russian Ballet, 1913
National Gallery of Australia, Canberra*

13



レオン・バクスト
「青神」の衣装(「青神」より)
1912年頃
オーストラリア国立美術館

Léon BAKST
*Tunic from costume for the Blue God,
from the Ballets Russes' production of
Le Dieu bleu (The Blue God), c.1912
National Gallery of Australia, Canberra*

14



レオン・バクスト
「女王タマルの友人」、「女王タマル」、
「レズギン」の衣装(「タマル」より)
1912年頃
オーストラリア国立美術館

Léon BAKST
*Costumes for a friend of Queen Thamar,
Queen Thamar and a Lezghin
from the Ballets Russes' production of
Thamar, c.1912
National Gallery of Australia, Canberra*

15



レオン・バクスト
「ニンフ」の衣装(「牧羊の午後」より)
1912年頃
オーストラリア国立美術館

Léon BAKST
*Costumes for nymphs
from the Ballets Russes' production of
L'Après-midi d'un faune (the Afternoon of a Faun),
c.1912
National Gallery of Australia, Canberra*

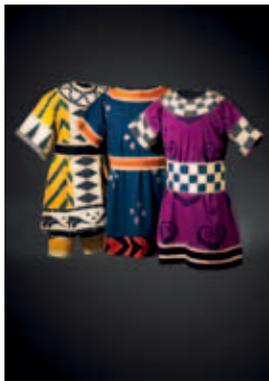
16



『コメディア・イリュストレ』特別版
(No.16, 1912年5月15日)
オーストラリア国立美術館

*Comœdia Illustré, special edition,
No.16, 15 May 1912
National Gallery of Australia, Canberra*

17



レオン・バクスト
三人の「海賊」の衣装(「ダフニスとクロエ」より)
1912年頃
オーストラリア国立美術館

Léon BAKST
*Costumes for three brigands
from the Ballets Russes' production of Daphnis
et Chloé (Daphnis and Chloé), c.1912
National Gallery of Australia, Canberra*

18



オーギュスト・ベール
《薔薇の精》— ニジンスキー
1913年
オーストラリア国立美術館

Auguste BERT
*Le Spectre de la Rose — M. Nijinsky,
plate 8 from
Studies from the Russian Ballet, 1913
National Gallery of Australia, Canberra*

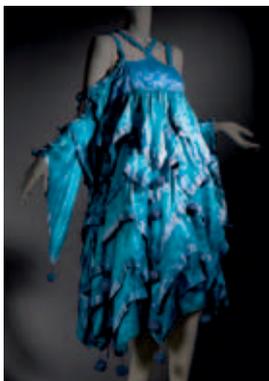
19



レオン・バクスト
「貴婦人」の衣装(「蝶々」より)
1914年頃
オーストラリア国立美術館

Léon BAKST
*Cape from costume for a lady
from the Ballets Russes' production of
Papillons (Butterflies), c.1914
National Gallery of Australia, Canberra*

20



ホセマリア・セール
ドレス(「女の手管」より)
1920-24年
オーストラリア国立美術館

José-Maria SERT
*Dress from the Ballets Russes' production of
Ballet de l'Astuce féminine / Cimariosiana
(Women's Wiles / Cimariosiana), 1920-24
National Gallery of Australia, Canberra*

21



レオン・バクスト
「侍女」の衣装(「眠り姫」より)
1921年頃
オーストラリア国立美術館

Léon BAKST
*Costume for a lady-in-waiting
from the Ballets Russes' production of
the Sleeping Princess, c.1921
National Gallery of Australia, Canberra*

22



ファン・グリリス
「伯爵夫人」の衣装(「女羊飼いの誘惑」より)
1924年頃
オーストラリア国立美術館

Juan GRIS
*Costume for the Countess
from the Ballets Russes' production of
Les Tentations de la bergère
(The Temptations of the Shepherdess), c.1924
National Gallery of Australia, Canberra*

23



ゲオルギー・ヤクローフ
「女性労働者」の衣装(「鋼鉄の踊り」より)
1927年頃
オーストラリア国立美術館

Georgy YAKULOV
*Costumes for female workers
from the Ballets Russes' production of
Le Pas d'acier (the Steel Step), c.1927
National Gallery of Australia, Canberra*

24



14

2014.

6.18 | 水 | — | 9.1 | 月

新国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO
KOKURITSU~SHIN~BIJUTSUKAN

休館日:毎週火曜日 ただし8月12日(火)は開館 会場:国立新美術館 企画展示室1E(東京・六本木)

開館時間:10:00-18:00、金曜日、8月16日(土)、23日(土)、30日(土)は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

主催:国立新美術館、TBS、オーストラリア国立美術館、読売新聞社

後援:オーストラリア大使館、公益社団法人日本ノレエ協会 協賛:大日本印刷、チャコット 協力:K-BALLET、日本航空、ヤマトロジスティクス

現代の芸術・ファッションの源泉
ピカソ、マティスを魅了した伝説のロシア・バレエ

魅惑のコスチューム: バレエ・リュス展

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

国立新美術館 広報担当 行 FAX:03-3405-2531 E-mail:pr@nact.jp

◆画像データ申込み(ご希望のデータの番号にチェックをつけてください)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

貴社名:

媒体名:

掲載/放送予定日: 月 日 発売 / 放送 (月号)

ご担当者名:

TEL:

FAX:

E-mail:

画像到着希望日: 月 日 時ごろまでに送付

◆プレゼント用招待券申込み(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組 10枚を希望します。

*発送は4月上旬を予定しております。

*チケット発送先となるご住所をご記入ください。

〒

◎写真ご使用に際してのお願い

*作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

*写真掲載にあたっては、[記載クレジット]全文を表記してください。

*トリミングおよび文字のせはできませんのでご了承ください。

*基本情報確認のためグラ刷・原稿の段階で下記の広報担当までファックスまたは E-Mailにてお送りください。

*掲載紙・誌等を必ず広報担当までご送付いただきますようお願い致します。

*招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願い致します。